

これからの投資信託の役割とは —投資文化の普及のために—

藤野 英人 CMA

目 次

- | | |
|--|-------------------------------------|
| <p>1. はじめに</p> <p>2. 業界の課題—投資信託業界で独立起業した理由</p> | <p>3. 投資信託の役割とは—社会を育てるアクティブファンド</p> |
|--|-------------------------------------|

1. はじめに

最初にお話ししたいことは、NHK大河ドラマの龍馬伝の中に出てくる岩崎彌太郎についてのエピソードである。現在の「ひふみ」という商品の在り方を決める大きなきっかけになった。ドラマの中で、大成功する前の岩崎彌太郎は、木材を大量に安く仕入れることができたので、それを売って儲けようともくろんだ。一軒一軒訪問して木材を売って回ったが全く売れなかった。どうしたら売れるだろうかと彌太郎が奥さんに相談したところ、おまけをつけたらどうかと言われた。そこで端材を利用して人形を作って、木材を購入してくれれば人形をおまけとしてあげることにした。大量の人形を作り、おまけ付きで木材を売ろうとし

たがそれでも全く売れなかった。ところが、あるところで、木材はいらぬがトイレが壊れているので、トイレを修理してくれたら使った分だけ木材を買ってもよいと言われた。彌太郎は手先が器用だったので、即座にトイレを修理して代金を得た。お客からは、「彌太郎さん、ありがとう。清潔なトイレができて快適な生活ができるようになった」と言われた。彌太郎はそのときにお客は木材が欲しいのではなく、木材を使った快適な生活が欲しかったということに気が付いた。木材はお客にとっておまけにすぎなかったのである。以上が、岩崎彌太郎がその後の商売で成功するきっかけとなったという龍馬伝でのエピソードである。

私は、そのエピソードを見て、投資信託も「おまけ」だということに気が付いた。この業界の人々



藤野 英人 (ふじの ひでと)

レオス・キャピタルワークス(株)代表取締役社長・最高投資責任者。1990年野村投資顧問入社、96年ジャーデイン・フレミング投信・投資顧問(現JPモルガン・フレミング・アセット・マネジメント)、2000年よりゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントにて、ファンドマネジャーを歴任。03年独立、創業。主に日本の成長企業に投資する株式投資信託「ひふみ」シリーズを運用。一般社団法人投資信託協会理事。